

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホームチェリーブラスサム		
所在地	山口県岩国市下342-1		
電話番号	0827-47-3326	事業所番号	3570800353
法人名	医療法人 新生会		

訪問調査日	平成 20 年 11 月 17 日	評価確定日	平成 21 年 2 月 6 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番17号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 3 月 22 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	12 人	常勤 5 人 非常勤 7 人 (常勤換算 7.7 人)	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 25,000 円	敷金	無 円
保証金	無 円	償却の有無	有 / 無
食費	朝食 500 円	昼食	600 円
	夕食 700 円	おやつ	円
その他の費用	月額 円		
	内訳		

(4)利用者の概要 (11 月 17 日現在)

利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
	要介護 1	要介護 4	6
	要介護 2	要介護 5	1
	要介護 3 2	要支援 2	
年齢	平均 85 歳	最低 77 歳	最高 94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	内科 いいい記念病院 いいいケアクリニック 歯科 塩田歯科医院
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

法人内の複数の施設との連携が十分に取れており、施設間での医療連携、協力病院の医療支援があり、緊急時対応の支援体制も出来ています。法人内で職員研修プログラムが確立されており、職員を育てステップアップするための取り組みがされています。

(特徴的な取組等)

日々の暮らしの中で一人ひとりの思いや希望を引き出すよう利用者としっかり向き合っており、希望の表出が困難な利用者の思いや体調なども把握されています。廊下に沿って回廊し、食堂にも面している出入り自由の中庭の花壇には、季節の花や野菜が植栽され、鳥の巣箱が設置され、明るさと共に季節感や開放感を感じます。洗濯物干し場やテーブル、椅子も設置され日常生活の活性化と気分転換にもつながっています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

職員ミーティングで話し合いを深め、個別対応など出来ることから取り組んでいます。第三者委員の選任や行方不明者の対応マニュアルは懸案事項として引き続き検討されています。

(今回の自己評価の取組状況)

常勤職員を中心に一項目づつ自己評価を行い、当日参加出来ない職員には随時意見を聞くなど全員で関わり、結果についても供覧により全員で共通理解しておられます。本日の外部評価に際しても、出勤できる職員多数が勤務し、外部評価の様子を見守っておられました。

(運営推進会議の取組状況)

2ヶ月に1回、連合自治会長、自治会長、婦人会長、地域包括支援センター、福祉員、民生委員、法人代表、家族、利用者等7～8人出席し、ホーム内でホームの雰囲気や利用者の様子を見てもらいながら話し合われています。運営推進会議を通して地域向けホームだよりも回覧する事が出来るようになりました。

(家族との連携状況)

家族会があり忘年会やお花見など家族も共に参加して交流を深めています。家族向けのホーム便りは年4回発行し、利用者の暮らしぶりやホームの様子をわかりやすくお知らせしており、面会時には近況や預かり金の出納状況を報告しています。状態が変わった時はその都度電話で相談する等、家族の要望や願いを聞きながらサービスの提供を行なっています。

(地域との連携状況)

自治会には加入をしていますが、地域向けのホーム便りを発行し回覧することで、防災訓練の参加呼びかけや、神楽やお祭り、幼稚園の運動会への招待などがあり、交流が広がってきています。ホーム便りは年4回季刊紙として発行しています。

評価結果

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「地域とのつながりを大切にしたいやさしいサービスをさせていただきます」と明示されており、地域の中でその人らしく暮らせるよう支援している。		
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ホームの入口に理念が掲示されており、朝礼では理念を唱和して確認すると共に、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
3 (7)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会には加入をしていないが、地域行事への参加案内があり、幼稚園行事への参加やお祭りを楽しむ機会がある。併設施設の行事に参加し地域の方と交流をしている。年4回地域向けホーム便りを地域内に回覧している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
4 (9)	○ <u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価、外部評価を実施する意義を深く理解しており、評価結果は職員ミーティングで共有し、改善事項は話し合いを深め、改善に向けて取り組んでいる。		
5 (10)	○ <u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に1回実施している。ホームの雰囲気や利用者を知ってもらうため、ホーム内で会議を行っている。ホーム側の報告事項や情報提供、勉強会が中心となっており、意見交換や提言には至っていない。	○	・意見を引き出す工夫
6 (11)	○ <u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	権利擁護事業や生活保護受給の利用者もあり、市の関係課、社会福祉協議会などとの連携があり、サービスの質の向上についても市と相談し助言を得ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
7 (16)	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	3ヶ月に一回ホーム便りを作成し、ホーム内での暮らしぶりや行事の様子を伝えている。家族の面会時には預かり金の報告と確認、近況報告をする他、様子が変わったときはその都度連絡し、相談をしている。		
8 (18)	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	ホームの苦情相談窓口や担当者、外部機関は重要事項説明書に明記されホーム内にも掲示されている。お花見、忘年会等家族参加の行事では、食事をしながら家族の意見を聞き、情報交換をしている。第三者委員は選任されていない。	○	・第三者委員の選任
9 (20)	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	通常、3～4人のスタッフで対応しているが、特別な行事や予定がある時は、職員の人数を増やす等の配慮をしている。		
10 (21)	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	結婚や出産などによる退職以外、異動は最小限抑えるように配慮している。異動時はその都度紹介し、馴染みの関係が早く出来るよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援				
11 (22)	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で職員研修のプログラムを作成し、ステップアップ研修が行われている。法人内研修は毎月1回開催し、外部研修も勤務の一環として参加している。		
12 (24)	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に入会しており、地域のブロック研修会や相互訪問にも参加し、情報交換しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取 組みを期待 したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
13 (31)	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	併設施設からの利用者には施設内で面接やアセスメントを行い、ホームの見学等の機会もあるが、在宅からの利用者には十分に対応されていない。	○ ・在宅からの利用者への配慮 ・入居時対応マニュアル作成
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
14 (32)	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者本人の得意分野や興味を引き出し、中庭で一緒に洗濯物を干したり、花壇の手入れ、食後の後片付けを共に行い、日々の暮らしの中で支えあう関係づくりをしている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
15 (38)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中で、利用者の希望や意向の把握に努めている。利用者の何気ない言葉やしぐさ等から尿意や便意、体調等を察知する事も多い。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
16 (41)	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	フローチャートを使い6ヶ月毎にアセスメントを行い介護計画を作成し、モニタリングは毎月行っている。家族の希望や職員の意見やアイデアを尊重し、一人ひとりに合わせた介護計画を作成している。	
17 (42)	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じて見直しを行い、状態に変化があった時にはその都度、家族や関係者と話し合い、計画の見直しを行っている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
18 (44)	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	希望する医療機関への受診や美容院への送迎を行っており、出かける機会を確保する為、隣接デイサービスの送迎車への便乗も出来る。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に希望の主治医を聞いている。月2回、協力病院の往診があり、状態が変化した時は、往診や受診など適切に医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	看取りの経験が一例ある。マニュアルを作成し、重度化した場合は主治医と関係者で話し合い検討している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりに合わせた対応が出来るようにミーティングで話し合い、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけはしていない。一人ひとりを尊重した言葉かけが行なわれていた。	
22 (59)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースは大切にされており、希望を伝えられない利用者には、会話や様子を見ながら支援している。利用者の穏やかな暮らしぶりがうかがえた。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	いりこの頭をとったり、もやしの根をとるなどの準備や後片付け等出来ることを一緒にしている。同じテーブルで職員も一緒に食事をしながら、利用者への声かけや介助が行われおり、食事の雰囲気や和やかであった。	
24 (64)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は週3回、午後の時間を利用して行なわれているが、希望者は毎日でも入浴できる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	リズム体操やラジオ体操、施設内の散歩、ぬり絵、計算ドリル、公文、ゴミ箱折り等、個別に対応しており、楽しみごとや気晴らしとなっている。	
26 (68)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望に応じ買物や散歩、美容院への付き添いをしている。隣接デイサービスの送迎車に便乗してのドライブ等、日常的に外出の機会を確保している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	すべての職員が抑制や拘束について理解しており、抑制や拘束はしていない。	
28 (75)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は、玄関居室共に鍵をかけていない。帰宅願望のある利用者にも、職員で見守りを行い鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
29 (78)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故・ヒヤリはたと報告書に記載し、改善策を講じている。事故防止マニュアルに添って一人ひとりに対応し、事故防止に取り組まれているが、行方不明時の具体的な対応マニュアルは出来ていない。	・行方不明時の対応の検討 ○
30 (79)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時や夜間は法人内の隣接施設の看護師と連携をとり対応している。平素から法人内の医師・看護師の協力を得て、研修をしている。	
31 (81)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	法人全体で訓練を行っている。夜間想定、煙への想定での訓練もしている。地域の防災訓練にも今後参加予定である。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
32 (84)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	服薬管理表を作成し、処方された薬について共通理解をしている。症状の変化など必要な情報は医師や薬剤師に提供し、薬剤師による管理指導も行なわれている。		
33 (86)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアをしている。歯ブラシや義歯の保管も適切であった。		
34 (87)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事チェック表で食事量、水分量を把握している。献立は隣接施設の管理栄養士が作成し、バランスのとれた食事が提供されており、食に関する相談助言を受けることも出来る。		
35 (88)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症予防マニュアルに基づき、手洗いの励行、ドアノブや手すりの塩素消毒を行い、手指消毒器や感染症予防のための噴霧加湿器が設置されている。インフルエンザの予防接種は全員実施している。調理器具も適切に消毒保管されていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
36 (91)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	不快に思う音や光はない。中庭には季節の花や野菜が植栽されている。出入りも自由にでき、ベンチが設置され、自由に外で過ごすことができ、季節感や開放感が確保されている。廊下は中庭に面して回廊し、休憩所が2箇所設置され憩いの場や団楽に使われている。施設内に犬や金魚が飼育され癒しとなっている。		
37 (93)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具やテレビ、仏壇や神棚も持ち込まれ、自分の居室として居心地良く安心して過ごせるよう配慮されている。居室は畳敷きにも替えられ、一人ひとりの状態や希望に応じた居室となっている。		

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グリーンホーム フェリーブラッサム
所在地	山口県岩国市下 342-1
電話番号	0827-47-3326
開設年月日	平成 12 年 3 月 22 日

【サービスの特徴】

安心して穏やかな生活ができるように
 その人の利用者の生活方を十分に理解し
 本人のペースにあわせて生活を支援すること
 今までの生活スタイルを尊重した援助を
 行います。

【実施ユニットの概要】 (10月 20日現在)

ユニットの名称	フェリーブラッサム				
ユニットの定員	9 名				
ユニットの 利用者数	9 名		男性	名	女性 9 名
	要介護 1		要介護 4		6
	要介護 2		要介護 5		1
	要介護 3	2	要支援 2		
年齢構成	平均 85 歳	最低 77 歳	最高 94 歳		

【自己評価の実施体制】

実施方法	
評価確定日	平成 20 年 4 月 28 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<u>○地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	<u>○理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	<u>○運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	<u>○運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	<u>○家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
6	<u>○隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。		
7	<u>○地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		
8	<u>○事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	〇評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
10	〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	○	具体的な内容がみつけない
11	〇市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
12	〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。		
13	〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
14	〇契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
15	〇運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		
16	〇家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 <u>〇情報開示要求への対応</u> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	応じている		
18 <u>〇運営に関する家族等意見の反映</u> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情相談窓口の職員いる 第三者委員や外部機関への開示はなし		
19 <u>〇運営に関する職員意見の反映</u> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	時々面接又はミーティングでの提案を聞いて反映させている。隣接の管理者も対応		
20 <u>〇柔軟な対応に向けた勤務調整</u> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	特別な行事や予定がある時は職員の人数を増やす等勤務の調整を行っている		
21 <u>〇職員の異動等による影響への配慮</u> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動、退職等あった場合は入居者へも都度紹介。利用者への影響を最小限におさえるようにしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 <u>〇職員を育てる取り組み</u> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で職員研修のプログラムを作成しステップアップ研修が行われている。 法人内研修は月1回開催する他、外部研修にも勤務の一環として参加している。		
23 <u>〇職員配置への取り組み</u> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	30～60代の職員西配置 男性不振の入居者あり現在男性職員なし		
24 <u>〇同業者との交流を通じた向上</u> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県グループホーム連絡協議会に入会している 研修会、勉強会には非常勤職員の参加も設けている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○<u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。 花見忘年会等、行い ストレスの軽減に努めている 隣接花健との合同旅行も実施		
26	○<u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。 脳への有無を察知して 争わず話し 前向きに話せるように		
27	○<u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。 人事評価表にて 自己評価 一次 二次評価 面談を行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	○<u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。 入居前訪問調査に行くから十分に聴く機会をつくってほしい 入居後の訪問も多い		1年間入居して経過している 待機者のフォローをして いる
29	○<u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。 面会時や電話にて 聴く機会をつくり応じている		
30	○<u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 同上		
31	○<u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。 初めての入所時、不安、ストレスをためない よう、お話ししてから、安心感をもってもらっている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32	○<u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。 本人の得意分野等 みつて 一緒に作業をしてから 支援している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取 組んでいき たい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	〇本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。 面会時や電話等で連絡を密にし 話をしている		
34	〇本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。 日々の生活状態を報告し又受けつけた 情報を利用者に伝えている。		
35	〇馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 家族の方や本人から話を聞いているが、やはり 馴染みの場所にはつづいてあげられない	〇	家族の方へお願いする方向に 話している
36	〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。 関係を把握し、テーブルに座める位置なども 工夫している		
37	〇関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。 入院などをし退所した後も定期的に 家族の方に連絡をとり、相談などに応じている (再入居等)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 髪を染めたい人は美容院へ、又サービスの送迎車を 利用してのドライブなど、買物、外出などなるべく希望に添わせ 努めている。又、重度の方は散歩、外気浴をしている		
39	〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 家族の方から聞き、その方にあった暮らし方を してもらっている		
40	〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。 その方にあった暮らし方をしてもらっている。 重度の方は散歩、外気浴をしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	○チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。 このチームで 穏やかにずっと暮らしてほしいという願いを持っているが 意見や希望は多い		
42	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 変化等あれば 家族と話し合い 都度見直している		
43	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 個別に記録し 情報も共有している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。 医療の受診(随時)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。 民生委員等の協力あり		
46	○事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。 ヘルパー研修、実習等 受け入れている。		
47	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。 月2回の往診 及び 随時往診 養老院(訪問)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48 ○ <u>地域包括支援センターとの協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要性が生じた場合は対応していく。		
49 ○ <u>かかりつけ医の受診支援</u> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時主治医を聞いている ホームに入居後はDr往診あり 月2回と随時		
50 ○ <u>認知症の専門医等の受診支援</u> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院あり 物忘れ外来あり		
51 ○ <u>看護職との協働</u> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	隣接先建の看護職員及び、かかりつけ医の看護師と相談、支援してもらっている。		
52 ○ <u>早期退院に向けた医療機関との協働</u> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	いる。 退院が長びく場合は一旦先建に入所して入居を待ってもらっている。		
53 ○ <u>重度化や終末期に向けた方針の共有</u> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	一例の対象者を経験している。		職員研修の機会を設けている。
54 ○ <u>重度化や終末期に向けたチームでの支援</u> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	高齢化・重度化に伴う家族との話し合い等を今後の向けての課題としている。		
55 ○ <u>住み替え時の協働によるダメージの防止</u> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	慣れた家具の持ち込みなどを含め、情報交換(事前訪問)を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
56	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	ミーティング等で話し徹底している	
57	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	重度の方多く自己決定できなように思われる	
58	○“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	できる人には楽しめながらやってもらっている 自分専用のトイレ、テレビを持ち、部屋の清掃も自分でする	
59	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切にしている 重度の方は家族と話し合い希望に添うよう支援している	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	美容院へお出かけし、パーマ、ヘアケア等もしてもらっている いけない方は、美容院より訪問してもらっている	
61	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	いろいろな顔をとり、おやしの味をとり、できることを一緒にしている 片付けもできる人は一緒にしている。食事は朝夕食、同じものを一緒に食べている。	9 介助者がおり、休憩時間か しゃべり
62	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	喫煙、飲酒者はいい おやつ等は好み開きながら購入 時々一緒にショッピングを行うことにしている	
63	○気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表にて、排泄のリズムを把握し トイレの案内を行っている 個人毎に合ったおむつを使用している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	<u>○入浴を楽しむことができる支援</u> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		PMからの入浴実施 希望される方は毎日でも入ってもらっている。
65	<u>○安眠休息の支援</u> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		日中は昼寝する時間をつくらせている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	<u>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</u> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		リズム体操やラジオ体操、ぬり絵 計算ドリルや公文、手作業(お茶入れ) 個別に対応している。
67	<u>○お金の所持や使うことの支援</u> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		金銭管理できる人はいない為 スタッフ管理している。個人ごとの月払い帳を作成
68	<u>○日常的な外出支援</u> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		重度化へ為(車いす対応増) いつでもと いうことはできないが 希望に添うようにしている。
69	<u>○普段行けない場所への外出支援</u> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		家族との外出、ドライブは いつでもでかけられる。
70	<u>○電話や手紙の支援</u> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		電話の引継ぎも、自らかけることに支援している 電話(ホンク)も設置
71	<u>○家族や馴染みの人の訪問支援</u> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		いつでも気軽に訪問できるようにしている
72	<u>○家族の付き添いへの支援</u> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		対応している。 利用者様の急病や 遠方に子供がいる方もいるので。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取 組んでい きたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。 家族会、お花見、納涼祭、忘年会等、書面や面談時、電話等にて呼びかけを繰り返している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
74	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束（スピーチロックやドラッグロック）を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。 身体拘束についての勉強会実施 又、ミーティングや申し送り時等にも話している		
75	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。 玄関へのドアをかけるケア実施。		
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。 常に所在の確認、様子を把握している		
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。 包丁、薬品等、目につかない場所に保管している		
78	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 見守り、目配り重視している。		
79	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。 医師及び看護師、隣接の医療の看護師と連携をとり対応している	○	初期の対応の方法を再度勉強していきたい
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や“ヒヤリはつと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。 事故ヒヤリハット報告書作成 ミーティングを行い対策を講じている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	隣接施設と合同訓練している 夜間想定 煙への想定訓練実施(10/28)	○	隣接老健は 広域の避難施設
82 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時や電話等で 対策を話し合っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタルチェックシート作成し 毎日の記録実施 体調の変化に気づき 対応に結びつけている		
84 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	服薬表作成 薬剤士の管理指導もしてもらっている	○	やる時間かばい時は 朝礼時、ミーティング時に説明する
85 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排泄ケア表作成、個々にあて便秘薬使用している 水分補給等も行っている		
86 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後の口腔ケア実施 できない人は お茶をしっかりと飲んでもらっている		
87 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事チェック表あり 毎食記入管理している 又、食事のとれない人には 栄養補助食品を使用/飲んでもらっている(エンコアリキッド等)		
88 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症対策のマニュアルあり 勉強会も実施		
89 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具は乾燥器で乾燥 まな板は1日1回ハイター消毒、日光乾燥、食器等もハイター消毒、調理前、中の手洗い実施で衛生管理している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。		利用者家族様 いつでも出入りできるようにしている
91	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。		テレビや、金魚、犬等あり。 廊下には、写真や絵を飾り、自然の空間で過ごしてもらっている
92	〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	〇	正座や足を伸ばすなどできない人あり タミコートはあまり使用することはないが、コートのコートを作り楽しんでもらっている
93	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		仏壇、ベント、使い慣れた物を活用 又、タミがよい人にはタミにて対応している
94	〇換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。		朝の清掃時や随時換気行っている 各室にエアコン、換気扇あり
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	〇身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。		廊下には手すりあり。
96	〇わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。		穏やかに観察し介助し 精神の安定できる 備え付けをしている
97	〇建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。		車いすの方が多い為 中庭に入ることはできないが、内側から、花壇を囲まわり歩いている 元氣の方は 草むしり等手伝って歩いている。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1／3くらいの	②利用者の2／3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1／3くらいと	②家族の2／3くらいと ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	②数日に1回程度 ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	②少しずつ増えている ④全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1／3くらいが	②職員の2／3くらいが ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1／3くらいが	②家族等の2／3くらいが ④ほとんどできていない